

教科	工業	科目	デザイン史	単位数	2単位
学科	繊維デザイン科	学年	3学年	コース	デザインコース
学習目標	日本並びに西洋の、原始から現代までの文化・技術及び社会の変化を把握し、時代ごとのデザインの特徴を理解する。建築、工芸、広告等、幅広い工業デザインの歴史に触れる。				
学習内容	学習項目		評価規準【評価の観点】		
	<p>1 日本</p> <p>(1) 原始</p> <p>ア 原始時代の住まい</p> <p>イ 原始時代の生活用具</p> <p>ウ 装飾古墳と原始絵画</p> <p>(2) 古代</p> <p>ア 飛鳥時代</p> <p>イ 奈良時代</p> <p>ウ 平安時代</p> <p>(3) 中世</p> <p>ア 鎌倉時代</p> <p>イ 室町時代</p> <p>(4) 近世</p> <p>ア 桃山時代</p> <p>イ 江戸時代</p> <p>2 西洋</p> <p>(1) 近代デザインの始まり</p> <p>ア 産業革命の影響とデザイン</p> <p>イ アーツ&クラフツ運動</p> <p>ウ アール・ヌーヴォー</p> <p>エ ポスターの興隆</p> <p>(2) 近代デザインの成立と展開</p> <p>ア 科学技術の発達</p> <p>イ 近代美術の革新</p> <p>ウ 近代デザイン運動の試み</p> <p>エ バウハウス</p> <p>オ アールデコ</p> <p>カ アメリカの工業デザイン</p> <p>3 現代</p> <p>(1) 産業の復興と現代デザイン活動の始まり</p> <p>ア 日本の戦後復興とデザイン</p> <p>イ 海外のデザイン動向</p> <p>(2) 産業の発展とデザイン</p> <p>ア 高度経済成長とデザイン</p> <p>イ 日本のデザインの発展</p> <p>ウ デザインの国際交流</p> <p>エ 海外のデザイン動向</p> <p>(3) 現代デザインの諸問題</p> <p>ア 経済成長から成熟化社会へ</p> <p>イ デザインの反省と将来への展望</p>		<ul style="list-style-type: none"> • 日本のデザインの歴史に関する基本的事項に関心を持ち、主体的に作品を鑑賞しようとする意欲・態度を身に付けている。【A】 • 日本のデザインの歴史に関する事物を通し、広い視野を得て思考を深め、自己の作品を工夫改善したり、作品に接したときに適切な評価判断をする能力を身に付けている。【B】 • 作品を鑑賞する正しい態度を身に付け、その内容を適切に表現する方法を習得する。また、自らの作品を制作する基礎的な技能や技術を身に付けている。【C】 • 日本のデザインの歴史に関する基本的な知識を身に付けるとともに、産業におけるデザインの役割や現代社会への影響を理解している。【D】 • 西洋のデザインの歴史に関する基本的事項に関心を持ち、主体的に作品を鑑賞しようとする意欲・態度を身に付けている。【A】 • 西洋のデザインの歴史に関する事物を通し、広い視野を得て思考を深め、自己の作品を工夫改善したり、作品に接したときに適切な評価判断をしたりする能力を身に付けている。【B】 • 作品を鑑賞する正しい態度を身に付け、その内容を適切に表現する方法を習得している。また自らの作品を制作する基礎的な技能や技術を身に付けている。【C】 • 西洋のデザインの歴史に関する基本的な知識を身に付けるとともに、産業におけるデザインの役割や現代社会への影響を理解している。【D】 • 現代のデザインに関する基本的事項に関心を持ち、主体的に作品を鑑賞しようとする意欲や態度を身に付けている。【A】 • 現代のデザインに関する事物を通し、広い視野を得て思考を深め、自己の作品を工夫改善したり、作品に接したときに適切な評価判断をしたりする能力を身に付けている。【B】 • 作品を鑑賞する正しい態度を身に付け、その内容を適切に表現する方法を習得する。また、自らの作品を制作する基礎的な技能や技術を身に付けている。【C】 • 現代のデザインに関する基本的な知識を身に付けるとともに、産業におけるデザインの役割を理解している。【D】 		
評価の観点	【A】 関心・意欲・態度 【B】 思考・判断・表現 【C】 技能 【D】 知識・理解				
評価方法	定期考査、出席状況、授業態度・意欲による総合評価				
教科書等	デザイン史（東京電機大学出版局）				
備考	デザイン史は繊維デザイン科コース科目であり、デザインコース対象に実施する。				

※評価規準は、学習の到達目標でもあります。